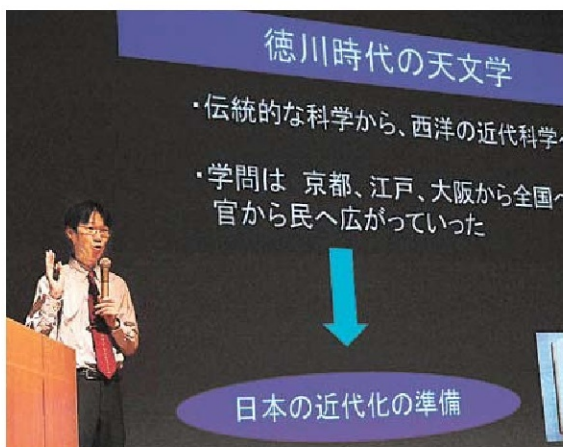


江戸期天文学を解説

徳川みらい学会 静岡で講演会 暦と政治関係テーマ



江戸時代の天文学者の仕事などをテーマにした講演会＝14日午後、静岡市葵区の市民文化会館

江戸時代の天文学な(催)が14日、静岡市葵区市民文化会館で開かれた。市立科学館の主任学芸員嘉数次人さんの講演。嘉数さんは17世紀末までの天文学者の仕事について「暦作りと国家の政治方針を決める星占い。科学と非科学が入り交じっていたのが特徴」と説明した。その後は西洋天文学の導入が始まったことで技術革新が起こり、「市販の望遠鏡で土星の輪や木星のしま模様、衛星も観察できるようになった」と述べた。

会場には約300人が集まり、江戸期の天文学に関するエピソードに興味深げに聞き入っていた。